

模合の履歴

現代沖縄社会におけるうちなーんちゅの人生と模合の機能把握の試み

The Personal Histories of *Moai*: An Attempt to Understand Functions of *Moai* through Personal Histories of Contemporary Okinawans

生地 陽

① 序 論

② 模合の履歴の事例

③ 考 察

【論文要旨】

沖縄の模合は「やまと」における頼母子講または無尽と類似した慣行であり、現代の沖縄島都市部において活発に行われている。目的や参加者の構成は多様であり、あらゆる社会集団において行われていると言ってもよい。本研究は主として沖縄島都市部の住民に対し模合の経験に注目したライフヒストリーの聞き取りを行い、戦後大きく変化した沖縄社会を人々がどのような人間関係を結びながら生きてきたのか、そしてそこに及ぼす模合の機能についての考察を試みるものである。筆者は1998年の4月より1年間沖縄島都市部に滞在し約10の模合に参加した約30人から模合に注目した聞き取り調査を行った。1章では既存研究を整理しながら模合の基本的な知識、模合の現状を概説した。調査結果から2章で7人の事例を示した。

戦後の沖縄社会のさまざまな変化の中で人々はしばしば居住地を移動し、生活環境を変えてきた。模合はその中にあって、仲間の助けや励ましを得られる場所であると同時に、新たに出会った人々と交流し信頼関係を涵養する場、そして身の回りのことからビジネスや政治までの情報交換の場になってきた。

若い日、出身地を離れ都市や海外へ渡ったうちなーんちゅが共同体の人間関係を継続させながら行った相互扶助については広く知られていることであるが、模合は現在大都市や移民先からUターンし、沖縄社会に再適応しようとする人々や、村落共同体にも郷友会にも帰属の薄い都市で生まれ生きるうちなーんちゅにとっても情動的相互扶助及び情緒的相互扶助とも言うべき機能を備えて継承されている。模合は人生の変化への適応装置であると呼べるかもしれない。

キーワード：模合、無尽、沖縄、ライフヒストリー、金融